

3. 産学官連携活動

3.1 研究成果の発表活動

(1) 医療展示会「中央西日本メディカル・イノベーション2019」

「中央西日本メディカル・イノベーション」は、平成25年度(2013年度)から毎年1回(2月～3月頃)、岡山大学鹿田キャンパスにおいて継続的に開催しています。医工連携によるイノベーションの創出と医療技術の一層の発展を目的とした展示発表会です。

医療機器等に係る研究シーズ、医療現場のニーズを中心に紹介してきましたが、平成30年度(2018年度)は厚生労働省委託事業「医療系ベンチャー・トータルサポート事業」の講演会・出前相談会、産学連携オープンイノベーションに係る各地域の取り組み、中国四国地区の各アカデミアからのシーズ・ニーズの個別マッチングと、より発展的、教育的なシーズ開発の議論の場とするべく、開催しました。

岡山大学発シーズ展示は、岡山大学発医療シーズ、現場ニーズの成果として、商品化している・治験を行っている・共同研究契約を締結しているテーマ20件を企業と共同で展示しました。

個別マッチングは、大学病院の「医療現場の困りごと・ニーズ」と新医療研究開発センター橋渡し研究支援室のシーズについて、シーズ・ニーズ提案者と企業との個別面談です。事前にWeb上で公開した15テーマのうち7テーマに対して企業8社から申し込みがあり、延べ14回の面談を実施しました。

なお、本事業は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)「国産医療機器創出促進基盤整備等事業」の一環として実施しました。

日 程	平成31年1月31日(木)
会 場	岡山大学鹿田キャンパス 総合診療棟 西棟5F
主 催	国立大学法人岡山大学
共 催	厚生労働省、岡山県、岡山市、(公財)岡山県産業振興財団、(一社)中国経済連合会、(一社)中国地域ニュービジネス協議会、岡山県薬業協会、岡山県医用工学研究会、NPO法人メディカルテクノおかやま、ハートフルビジネスおかやま、メディカルネット岡山、医療機器開発プロモートおかやま
後 援	(公財)大阪産業振興機構、大阪商工会議所、(一社)大阪医療機器協会、山陽新聞社、RSK山陽放送、(株)中国銀行、(株)トマト銀行、おかやま信用金庫
内 容	①岡山大学発シーズ展示(20件) ②個別マッチング 中国四国地区のアカデミア等からのシーズ・ニーズ 出前相談会 医療系ベンチャー・トータルサポート事業(MEDISO) ③講演「厚生労働省における医療系ベンチャー支援について」 講師 厚生労働省医政局経済課 室長補佐 桑原 宏哉 氏 ④ディスカッション「産学連携オープンイノベーション各地域の取り組み」 モデレータ： 岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科長／教授 那須 保友 パネリスト： 厚生労働省 医政局経済課 室長補佐 桑原 宏哉 氏 岡山地区 イメージング&ロボテック(株) 社長 谷本 圭司 氏 広島地区 広島県商工労働部 医工連携・新産業推進部 部長 空田 賢治 氏

	神戸地区 公益財団法人神戸医療産業都市推進機構 クラスタ推進センター センター長 佐藤 岳幸 氏 四国地区 公益財団法人えひめ産業振興財団 愛媛県技術開発プロジェクト・プロデューサー 川真田 康人 氏 ⑤院内ツアー(参加者20人)
入場者数	172名

「中央西日本メディカル・イノベーション」の実績データ

	第1回*	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
日 程	2014年3月 18～20日	2015年2月 17～18日	2016年2月 16～17日	2017年 3月14日	2018年 1月31日	2019年 1月31日
団体展示 (cf. 岡山県, 岡山市 等)	4件	4件	4件	0件	0件	0件
シーズ(大学) 展示	8件	13件	15件	13件	12件	20件
企業展示	18件	18件	4件 (大手企業)	25件	0件	大学と共同 展示
研究シーズ・ 現場ニーズ発表	6件 (コ・メディ カルから)	16件	11件	11件	6件	
入場者数	354名	331名 (学内34, 学外197名)	377名 (学内103, 学外274名)	290名 (学内88, 学外202名)	196名 (学内77, 学外119名)	172名 (学内51, 学外121名)
院内ツアー 参加者			59名	43名		20名
相談会					8件	個別マッチン グ8社14面談

*第1回は「岡山メカディル・イノベーション」、第2～6回は「中央西日本メディカル・イノベーション」の名称で開催



岡山大学発シーズ展示



講演



ディスカッション



院内ツアー

(2) 岡山大学研究シーズ発信会

本シーズ発信会は、2016 年度までの過去 11 年間、国立研究開発法人科学技術振興機構との共催により東京で実施してきた「岡山大学新技術説明会」を、岡山大学の新しい研究成果を県内企業に向けて発信し、それらの産業化や社会実装を通じて地域の活性化に貢献できるよう、昨年度地元岡山で開催したのに引き続き、今年度も岡山にて実施しました。

当該シーズ発信会では、竹内大二 岡山大学理事・副学長(研究担当)の開会挨拶に続き、以下に示す 9 名の研究者が、これからの共同研究や技術移転に向けて、研究成果を解説・発表しました。

シーズ発信会の開催概要・プログラムは以下のとおりです。

開催日時：平成 30 年 12 月 4 日(火)10：20～16：00

主 催：国立大学法人岡山大学

後 援：経済産業省中国経済産業局，岡山県，岡山県経済団体連絡協議会，
岡山県商工会議所連合会，岡山県経営者協会，一般社団法人岡山経済同友会，
岡山県中小企業団体中央会，岡山県商工会連合会，
公益財団法人岡山県産業振興財団

開催場所：岡山大学 創立五十周年記念館 大会議室（岡山市北区津島中 1-1-1）

発表分野：情報・通信，建築・土木，材料，環境・エネルギー，ライフサイエンス，
計測・分析

参 加 者：本学関係者も含めて 63 名（全体延べ聴講者人数 190 名）

平成 30 年度岡山大学研究シーズ発信会のプログラム

所 属	職名	氏 名	発表分野	発 表 題 目
環境生命科学 研究科	准教授	珠玖 隆行	情報・通信 建築・土木	土木工学における数値・データ解析と 異分野とのコラボレーション
異分野基礎科学 研究所	教授	久保園 芳博	材料 情報・通信	多環状縮合炭化水素分子を使った高 性能・高機能有機トランジスタ
環境生命科学 研究科	助教	辻本 久美子	情報・通信 環境・エネルギー	スマートフォンアプリを利用した営農管 理システム構築に向けて
教育学研究科	教授	伊藤 武彦	情報・通信 環境・エネルギー	多地点同時の継続的湿球黒球温度 測定とそれをを用いた教育や安全の取り 組み

環境生命科学 研究科	教授	田村 隆	ライフサイエンス	転写の活性化による有用物質生産の 飛躍的増産技術
医歯薬学総合 研究科	准教授	金 恵淑	ライフサイエンス	広範囲感染症の治療剤候補・有機合 成環状過酸化物の現況と今後の展望
ヘルスシステム 統合科学研究科	助教	増田 潤子	ライフサイエンス 計測・分析	がん抑制効果のある化合物を免疫学 的に選択するための検査技術
環境生命科学研 究科	准教授	前田 恵	ライフサイエンス	スギ・ヒノキ花粉アレルゲン糖鎖の構造 的特徴と糖鎖ポリマーの開発
医歯薬学総合研 究科	教授	松川 昭博	ライフサイエンス	日本発世界初の体内吸収性材料「リン 酸化プルラン」の医用展開

※発表内容詳細は、http://www.orpc.okayama-u.ac.jp/tenji/seeds_01.htmlをご参照ください。

(3) 展示会等への戦略的出展支援

研究推進産学官連携機構では、研究交流部と連携し平成 22 年度から首都圏で開催される国内主要展示会への出展を積極的に支援しています。これらの出展は、産学連携や知的財産活用が可能な研究成果を広く公開することにより、岡山大学の研究成果の普及や技術移転を促進させ、同時に学術研究活動の活性化を図ることを目的として実施されています。

平成 30 年度は、6 月に「BIO tech 2018」、10 月に「Bio Japan 2018」及び「MEMS センシング&ネットワークシステム展 2018」への出展支援を行いました。

1) 「BIO tech 2018」第 15 回アカデミックフォーラム

本展示会では、医療、創薬、生命医用工学など、6 件の研究成果を展示・公開しました。

会場内のパートナリング商談ルームでは、上記研究成果やその他の研究に興味を持った製薬企業、医療・医薬関係団体と技術移転や共同研究の実施に向けて精力的に意見交換を行いました。

日 時：平成 30 年 6 月 27 日（水）～6 月 29 日（金）

場 所：東京ビッグサイト（東京都江東区有明）

主 催：リードエグジビションジャパン（株）

発表者・所属・出展タイトル

発表者	所 属	出展タイトル ※
竹中 文章	大学院医歯薬学総合研究科	高分子医薬を用いた PET イメージングによる Theranostics 技術
世良 貴史	大学院ヘルスシステム統合科学研究科	人工核酸結合タンパク質の医療・農業への応 用
高柴 正悟	大学院医歯薬学総合研究科（歯）	口腔バイオフィルム感染症を制御するパウ ダー状の天然食品の探索
大原 利章	大学院医歯薬学総合研究科（医）	バスキュラーアクセス手術の安全性を高め る新デバイスの開発
妹尾 昌治	大学院ヘルスシステム統合科学研究科	ヘルスシステム統合科学：イノベーションと 社会実装の教育と研究

岡田 正弘	大学院医歯薬学総合研究科（歯）	生体ミネラルでできた新しい生体組織用接着材
-------	-----------------	-----------------------

※出展内容詳細は、 https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/event/biotech.pdf をご参照ください。

2) 「Bio Japan 2018」-World Business Forum-

本展示会では、人工核酸結合タンパク質の医療・農業への応用や、がん幹細胞アトラス計画、現場検査を可能にする農作物品種識別法、大麦の効率的形質転換事業などに関する研究成果を報告したほか、岡山大学病院バイオバンクやおかやまメディカルイノベーションセンターにおける分子イメージング研究・活動実績の展示・発表を行いました。

大学院ヘルスシステム統合科学研究科の世良貴史教授は、標的の塩基配列に高い親和性で特異的に結合する人工核酸結合タンパク質を容易にデザイン・創出するシステムを開発。この人工核酸結合タンパク質に核酸消化酵素をつなげた人工制限酵素を使ってウイルスゲノムを切断し、標的ウイルスの増殖を阻止することにより、ウイルスを原因とする病の発生を抑えることが可能であることを説明しました。

資源植物科学研究所の久野裕准教授は、遺伝学的解析により、大麦の遺伝子導入に必要な形質転換の効率に関わる遺伝子座(Transformation Amenability: TFA)を3つ発見。TFAを目印として、目的とする品種と醸造用大麦品種「ゴールドンプロミス (GP)」との交雑後代の中から、遺伝子鑑定で形質転換可能な大麦系統を抽出・育成することを可能にしました。これまでGP以外の品種では形質転換することは困難でしたが、この技術により、ほぼ全ての大麦品種で形質転換が可能となり、品種の育成や遺伝子機能の解析にかかる時間を大幅に短縮出来ることを説明しました。

また、会場の一画に設けられたパートナーングルームでは、研究に興味を持った製薬企業や医療・医薬関係団体、食料品企業と精力的に技術移転や共同研究の実施に向けて意見交換・協議を行いました。

日 時：平成 30 年 10 月 10 日(水)～10 月 12 日(金)
 場 所：パシフィコ横浜(横浜市西区みなとみらい)
 主 催：バイオジャパン組織委員会、株式会社 JTB コミュニケーションデザイン
 特別協賛：横浜市
 特別後援：神奈川県、川崎市
 参 加 者：16,309 名(展示会全体 3 日間の来場者数)

発表者・所属・出展タイトル

発表者	所 属	出展タイトル ※
森田 瑞樹	大学院医歯薬学総合研究科(医)	岡山大学病院バイオバンクがみなさんのお役に立てること
明日 卓	大学院医歯薬学総合研究科(医) 産学官連携センター	おかやまメディカル・イノベーションセンター(OMIC)における分子イメージング研究
世良 貴史	大学院ヘルスシステム統合科学研究科	人工核酸結合タンパク質の医療・農業への応用
妹尾 昌治	大学院ヘルスシステム統合科学研究科	がん幹細胞アトラス計画：エピゲノムからがんゲノムまで

門田 有希	大学院環境生命科学研究科(農)	現場検査を可能にする農作物品種識別法
久野 裕	資源植物科学研究所	大麦の効率的形質転換技術

※出展内容詳細は、http://www.orpc.okayama-u.ac.jp/tenji/biojapan_02.htmlをご参照ください。



研究成果を発表する世良教授



来訪者に研究成果を説明する
来訪者で賑わう岡山大学ブース
久野准教授(右)



3) MEMS センシング&ネットワークシステム展 2018

本展示会では、「高機能ナノ物質」、「ナノ繊維」、「新形態ガスセンサー」などに焦点を当て、研究成果を展示・公開しました。

異分野融合先端研究コアの仁科勇太准教授は、「MEMS に用いる炭素 2 次元ナノシートの合成と機能化」と題して、カーボンナノシート(CNS)の大量合成法について発表を行いました。CNS は、厚みが 1nm 以下かつ μm オーダーの広がりを持つ 2 次元材料であり、微小基板上にデバイスを作成する MEMS においては画期的な材料になると期待されています。また、微細な燃料電池電極触媒、電気二重層キャパシタ、潤滑剤、分離膜、蓄電池、太陽電池、センサーなどへの応用展開が期待されており、本研究成果がその基礎となる材料の提供を可能にすることになります。

大学院自然科学研究科の狩野旬准教授は、「ショットキー接合界面を利用した新形態ガスセンサー」と題して、酸化物薄膜表面にドット状に金属を成膜した構造体の高感度ガスセンサーの開発について発表を行いました。このセンサーは、従来の半導体ガスセンサーとは動作原理が異なり、金属と酸化物界面に形成されるショットキー障壁の高さ変化を計測することでガスを検知するものです。ある温度、ガス雰囲気中において電気計測を行うと、触媒 - 反応物質間での電子移動情報が得られ、触媒情報を評価することが出来ることも示しました。

同じく大学院自然科学研究科の中西真助教は、「高濃度元素置換による高保磁力 M 型フェライトの開発」と題して、水熱合成法を適用し圧力効果を利用することにより、200℃という極めて低温度条件下で、従来よりも高濃度にコバルト等の元素を置換した M 型フェライトの合成を成功させたことを発表しました。この成功により、磁気特性として、従来型材料と比較して 2.1 倍という大幅な保磁力の増加が達成され、また、この特性向上により、高密度記録素子用材料としてナノスケールまで微細化させても安定に動作することを示しました。

日 時：平成 30 年 10 月 17 日(水)～10 月 19 日(金)

場 所：幕張メッセ国際展示場（千葉県千葉市美浜区中瀬 2-1）

主 催：一般財団法人マイクロマシンセンター、技術研究組合 NMEMS 技術研究機構
株式会社 JTB コミュニケーションデザイン

参 加 者：28,660 名（展示会全体 3 日間の総来場者数）

（内訳：MEMS 展来場者 4,570 名＋ CEATEC JAPAN からの来場者 24,090 名）

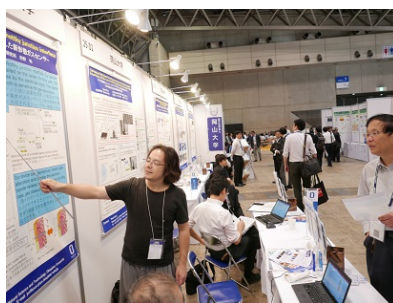
発表者・所属・出展タイトル

発表者	所属	出展タイトル ※
仁科 勇太	異分野融合先端研究コア	MEMS に用いる炭素 2 次元ナノシートの合成と機能化
池田 直	大学院自然科学研究科(工)	マイクロ波照射とファイバーエアロゾルデポジション法を組み合わせた三次元高密度炭素短繊維構造体の形成
小野 努	大学院自然科学研究科(工)	マイクロ流体デバイスを利用したナノ繊維生産
狩野 旬	大学院自然科学研究科(工)	ショットキー接合界面を利用した新形態ガスセンサー
中西 真	大学院自然科学研究科(工)	高濃度元素置換による高保磁力 M 型フェライトの開発

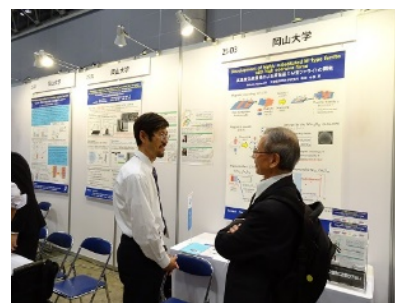
※出展内容詳細は、http://www.orpc.okayama-u.ac.jp/tenji/mems_02.htmlをご参照ください。



プレゼンテーションを行う
仁科准教授



自ブースで来場者に説明を
行う狩野准教授(左)



自ブースで来場者に説明を
行う中西助教(左)

(4) イノベーション・ジャパン 2018

本学は 8 月 30 日～8 月 31 日、東京ビッグサイトで開催された国内最大規模の産学マッチングの場「イノベーション・ジャパン 2018 ～大学見本市&ビジネスマッチング～」に出展しました。本展示会は、大学および公的研究機関等の研究者と民間企業の研究者等が一同に会する全国規模の産学官マッチングイベントであり、大学等の優れた研究成果を広く発信し円滑に社会に還元することを目的として開催されました。

岡山大学からは、自然科学研究科の中西真助教、自然科学研究科の押木俊之講師、ヘルスシステム統合科学研究科の堺健司助教が展示と口頭発表を行いました。

日 時：平成 30 年 8 月 30 日(木)[9：30～17：30] ～ 8 月 31 日(金)[10：00～17：00]

場 所：東京ビッグサイト 西展示棟・西 1 ホール(東京都江東区有明)

主 催：国立研究開発法人科学技術振興機構

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

共 催：文部科学省、経済産業省

来場者：2 日間総来場者数 14,061 名(平成 29 年度：25,703 名)

【イノベーション・ジャパン 2018 岡山大学出展者】

出 展 者	所 属 ・ 職 名	出展タイトル
中西 真	大学院自然科学研究科 助教	バイオテンプレートを利用した酸化鉄オレンジ顔料の開発

押木 俊之	大学院自然科学研究科 講師	MADE IN JAPAN：独自開発に成功「メタセシス重合用の革新触媒」
堺 健司	大学院ヘルスシステム統合科学研究科 助教	磁気を用いた鋼板の焼入れ状態の非破壊評価技術

(5) 第 23 回岡山リサーチパーク研究・展示発表会

岡山県内の大学及び岡山リサーチパークに関係する企業・機関の研究開発成果を発表するとともに、その成果を県内に広めるための交流の場を設け、岡山県内産業の振興に寄与する目的で毎年開催されています。今回は、岡山県・(公財)岡山県産業振興財団の主催により、テクノサポート岡山で「ポスター展示と一部のテーマについては口頭発表が行われました。

本学は、研究シーズ 10 テーマの展示を行い、うち 3 テーマは口頭発表も行いました。

- ◆ 日 時：平成 31 年 2 月 15 日（金） 13:00～16:30
- ◆ 会 場：テクノサポート岡山 （岡山県岡山市北区芳賀 5301）

【研究シーズ出展等】（岡山大学のみ抜粋）

熱可塑性 CFRP の電気抵抗接合技術に関する研究	大学院自然科学研究科（工） 教授 岡安 光博
オーステナイト系ステンレス鋼の摩耗特性に及ぼす荷重の影響	大学院自然科学研究科（工） 助 教 李 允碩
水素社会に向けたゼロナノリーク技術の確立	異分野融合先端研究コア 助 教 大宮 祐也
高性能高分子ナノ材料の作製と複合体への応用	大学院自然科学研究科（工） 准教授 内田 哲也
上部消化管内視鏡検査と同時に食道内圧を測定する新規機器の開発 ※	大学院医歯薬学総合研究科（医） 助 教 杉原 雄策
CT ガイド下 IVR 用針穿刺ロボット（Zerobot®）の開発 ※	大学院医歯薬学総合研究科（医） 准教授 平木 隆夫
色素結合薄膜型人工網膜 OUREP と同時承認を目指す人工網膜注入器 OUREP Injector の開発	大学院ヘルスシステム統合科学研究科 准教授 松尾 俊彦
アオコの大繁殖を抑制するバイオ燃料電池の構築	大学院環境生命科学研究科（農） 教 授 田村 隆
数値モデルを用いた太陽光発電電力の平滑化制御法	大学院自然科学研究科（工） 助 教 高橋 明子
スマートフォンアプリを利用した営農管理システム構築に向けて ※	大学院環境生命科学研究科（環） 助 教 辻本 久美子

※印は、口頭発表（プレゼンテーション）も実施

(6) 『おかやまテクノロジー展(OTEX)2019』 ～精鋭企業と出会う技術展示商談会～

本イベントは、岡山県、公益財団法人岡山県産業振興財団の主催により、岡山県内の機械系ものづくり関連企業等の新技術・製品開発力・製品等を一堂に集めた大規模展示商談会を開催する

ことにより、「ものづくり県おかやま」をアピールするとともにマッチング機会を創出することを目的に、毎年開催されています。

今回は、平成31年1月24日・25日の2日間にわたり、コンベックス岡山大展示場の岡山・産学官連携推進会議のブースにおいて7大学1高専がポスター展示・研究シーズ展示を行いました。

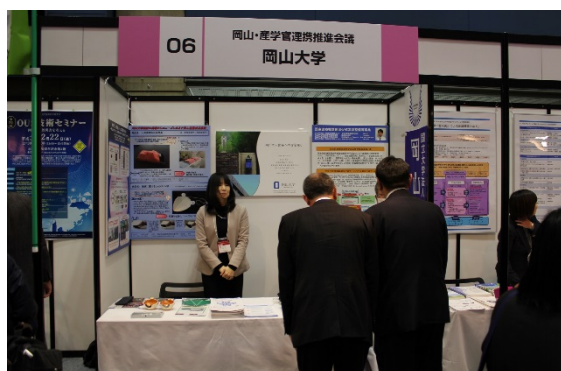
岡山大学は、研究シーズ2テーマと岡山大学のPRを展示し、情報発信を行いました。

日 時：平成31年1月24日（木）10:00～17:00、25日（金）10:00～16:30

場 所：コンベックス岡山 大展示場 （岡山県岡山市北区内田）

【研究シーズ・成果物展示】（岡山大学のみ抜粋）

確実に履ける「ソックスエイド」	岡山大学病院 医療技術部 （総合リハビリテーション部門）
失明した患者さんに希望の光を！～岡山大学方式人工網膜（OURePTM）の実用化に向けて～	大学院医歯薬学総合研究科（医） 准教授 松尾 俊彦



【岡山大学ブースの様子】



【会場の様子】

3. 2 シンポジウムの開催・参画

(1) 「中国地域産学官コラボレーション会議」第17回全体会議

中国地域産学官コラボレーション会議は、中国地域の産・学・金・官88機関で構成され、「ちゅうごく地域の輝かしい未来に向かって、さらに連携を進化(深化)させよう」をスローガンに、様々な産学金官連携に取り組んでいます。

例年、中国地域産学官コラボレーション会議全体会議後に中国地域産学官コラボレーションシンポジウムが開催されていましたが、今年度は新たな試みとして、参加機関同士の交流・情報交換を促進する場となり、各機関の取り組みの更なる向上を実現するため、当該会議を参加者によるグループディスカッションを中心とした形式に変更して開催されました。

日 時 : 平成30年7月23日 14:00-17:15

場 所 : 山口グランドホテル 3F 末広
(山口県山口市小郡黄金町)

主 催 : 中国地域産学官コラボレーションセンター

来場者数: 50名

内 容 : (1) 開会挨拶

(2) 参画機関の産学官連携事例共有・考察

①事例説明・質疑応答

・しょうばら産学官連携推進機構の活動

・衛星データの活用による産業振興の取組について

②グループディスカッション

・ディスカッション

・全体共有

(3) 参画機関からのお知らせ

(4) 閉会挨拶

3. 3 社会人教育活動

(1) MOT研修会

MOT(Management of Technology)とは、技術を基盤とする事業を持続的に発展させるための、マネジメントに関する学問分野です。

本研修会では、平成16年度から県内の企業人並びに社会人を対象に、セミナーを実施しています。また、セミナーの所定の回数を受講した方には、岡山大学より修了証書が授与され、さらに受講修了者で構成される「MOT研究会」への入会資格が得られます。

1) MOTセミナー

本セミナーは、経営幹部、管理職、中堅社員等、幅広い層の方々に受講いただいております。内容を凝縮し、全11回で技術の事業化の各段階で遭遇する課題と解決の手法を体系的に学べるように進めています。

例年、受講者に好評のため、「ビジネスゲーム」と題しマネジメント・ゲームを通してビジネスの流れ、損益計算、リスクマネジメント等を学べる講義を2日連続して開催しました。

また、11回(11章)開催し、7回以上出席した27名の方に修了証書を授与しました。

◆セミナーの詳細は、<http://www.orpc.okayama-u.ac.jp/event/index.html>をご参照ください。

平成30年度 MOTセミナー 開催記録

開催日時	内 容	受講人数
5月10日(木) 10:00～17:00	第1回「開講式・ケース説明」	28名
6月15日(金) 10:00～17:00 6月16日(土) 10:00～17:00	第2回「ビジネスゲーム」	28名
7月12日(木) 10:00～17:00	第3回「経営理念と事業ドメイン」	24名
8月23日(木) 10:00～17:00	第4回「発想法、特許出願」	28名
9月13日(木) 10:00～17:00	第5回「ビジネスモデルとイノベーション」	24名
10月11日(木) 10:00～17:00	第6回「マーケティング」	24名
11月 8日(木) 10:00～17:00	第7回「原価計算と収益管理」	25名
12月13日(木) 10:00～17:00	第8回「事業戦略とロードマップ」	23名
1月10日(木) 10:00～17:00	第9回「研究開発」	25名
2月14日(木) 10:00～17:00	第10回「プロジェクトマネジメント」	22名
3月 7日(木) 10:00～17:00	第11回「技術戦略企画書・閉講式」	26名

平成30年度 学生のためのMOT講座 開催記録

開催日時	内 容	受講人数
6月18日(月) 10:00～11:00	「キャンパスベンチャーグランプリ」概要・優秀表彰事例の紹介・審査等のポイント・応募の勘所	100名



MOTセミナーの開催風景

2) MOT研究会

平成22年度に、MOTセミナーを修了した受講者で「MOT研究会」を発足しました。研修会で得た知見を基にして、現場でのMOT実践力向上のための相互研鑽と会員相互の親睦を目的として活動しています。

3. 4 包括連携活動

大学が締結する「包括連携」の目的は、技術開発、人材育成、社会貢献等の幅広い領域で相互の信頼に基づいた活動を組織的に推進することです。例えば、「研究」の観点では、従来は個別の教員毎に進められていた共同研究の進捗管理、予算管理等を、大学側トップ(通常は理事・研究担当副学長)と企業側代表からなる連絡協議会等のマネジメント組織が担当することで研究開発の円滑な運営が可能になります。また、相互の緊密な交流を通じて地域社会の発展や産業の振興等にも貢献することが可能になります。

主な包括連携先と活動状況は、以下のとおりです。

[]内は包括連携協定締結年度

1) 金融機関

- ・中国銀行 [平成 16 年度]
- ・おかやま信用金庫 [平成 18 年度]
- ・トマト銀行 [平成 18 年度]

＜目的＞地域における互いの情報およびノウハウを結びつけること等を通じて相互の連携を強化し、もって相互の発展並びに地域の発展に貢献する。

2) 国、県等

- ・中国地方整備局 [平成 17 年度]

＜目的＞教育研究面の向上と地域社会への貢献等。

- ・岡山県農業協同組合中央会・中国四国農政局・岡山県 [平成 22 年度]

＜目的＞農業とその関連分野における各種施策の推進、試験研究、知識・技術の交流。

- ・岡山県 [平成 30 年度]

＜目的＞岡山県が実施する「大学と連携した地域産業振興事業」を効果的に実施し、企業の技術開発及び大学の教育・研究を促進するとともに、地域の活性化に貢献する。

3) 国立研究開発法人

- ・日本原子力研究開発機構 [平成 19 年度]

＜目的＞双方の研究施設、研究成果、人材等を活かした研究および人材育成の充実。

- ・産業技術総合研究所 [平成 20 年度]

＜目的＞双方の研究開発・人材育成・成果の社会還元等について、学術および産業技術の振興に寄与するとともに、地域産業の発展に寄与する。

- ・鏡野町・日本原子力研究開発機構 [平成 26 年度]

＜目的＞地域の特性に立脚した研究開発と人材育成。

4) 一般企業

- ・DOWA ホールディングス(株)(旧：同和鉱業(株)) [平成 17 年度]

＜目的＞循環型社会の構築の発展と改善への貢献。

- ・(株)三井 E&S ホールディングス (旧：三井造船(株)) [平成 18 年度]

＜目的＞教育研究の強化及び研究開発業務の強化により研究成果を広く普及させ社会に貢献する。

- ・(公財)石川文化振興財団・(株)ストライプインターナショナル・石川康晴 [平成 28 年度]

＜目的＞様々な分野で相互に連携、協力し合うことで、文化的、教育的プログラムを推進し、包括的な相互支援の促進を図る。

5) その他

- ・(特別認可法人)岡山県中小企業団体中央会 [平成 17 年度]

＜目的＞地域における互いの情報・ノウハウを結びつけ，相互の発展および地域の発展に貢献する。

- ・(一社)岡山経済同友会 [平成 26 年度]

＜目的＞それぞれの有する資源の相互利用と密接な人的交流により得られた研究成果を効果的に活用することにより，学術研究の振興と研究成果の社会活用の推進に貢献する。

3.5 金融機関との連携活動

金融機関と大学とが協力しながら産学連携活動を推進することを、産学金連携活動と呼んでいます。このような活動が進展している背景には、平成14年度に金融庁が提唱したリレーショナルバンキングの動きがあります。これは、地域における中小企業の技術開発や新事業の展開を支援するため、各金融機関が、地域の大学と同様に支援を行おうとするものです。本学では以下のような金融機関との連携活動を進めています。

(1) 岡山大学と金融機関との包括連携協定

- ・本学が、包括連携協定を締結している金融機関は以下のとおりです。

政 府 系：中小企業金融公庫岡山支店（現：日本政策金融公庫岡山支店）

「産学官連携の協力推進に係る協定書」、平成18年2月6日調印

地方銀行：中国銀行株式会社

「連携に関する包括協定書」、平成17年3月9日 調印

第2地方銀行：株式会社トマト銀行

「国立大学法人岡山大学と株式会社トマト銀行との連携に関する包括協定書」、

平成19年3月30日調印

信用金庫：おかやま信用金庫

「国立大学法人岡山大学とおかやま信用金庫との連携に関する包括協定書」、平

成18年8月29日調印

(2) 金融機関主催のビジネスマッチングへの参加

下記の大学相談コーナーに出展して、参加企業からの技術的な相談に対応しました。

・第19回おかやましんきんビジネス交流会

<http://www.shinkin.co.jp/okayama/business/interchange/019report.php>

日時：平成30年4月13日（金） 13:00～16:30

場所：岡山コンベンションセンター 3階コンベンションホール他（岡山市）

主催：おかやま信用金庫 ビジネスクラブ事務局（おかやま信用金庫）

来場者数：1230名

PRブース出展参加企業数：92社

記事：アカデミックインターミディエイトコーナーに、岡山大学と「さんさんコンソ」がブース出展し、参加企業からの相談に対応しました。



「第19回おかやましんきんビジネス交流会」の風景

・第14回岡山県しんきん合同ビジネス交流会

<http://shinkin-business.jp/bm14/bm14result.html>

日時：平成30年9月12日(水) 10:00～16:00

場所：コンベックス岡山（岡山市北区大内田675） 大・中・小展示場

主催：おかやま信用金庫ほか岡山県内7信用金庫，日本政策金融公庫，（公財）岡山県産業振興財団，（独）中小企業基盤整備機構中国支部，信金中央金庫岡山支店

来場者数：3800名

PRブース出展参加企業数：420社（前回：420社）

記事：アカデミックインターミディエイトコーナーに，岡山大学と「さんさんコンソ」など13大学・機関が参加して，企業からの相談に対応しました。

- ・本機構が審査員を務めたビジネスコンテストの結果は以下のとおり。

最優秀賞：株式会社植田板金店（岡山県岡山市）

優秀賞：株式会社メディプラン（岡山県岡山市）

株式会社佐田建美（岡山県真庭市）

・第4回しんくみビジネスマッチング

日時：平成30年11月14日(水) 10:00～16:00

場所：笠岡総合体育館（岡山県笠岡市）

主催：岡山県信用組合協会

来場者数：1997名

参加企業数：162社

記事：相談コーナーに，岡山大学と「さんさんコンソ」など6大学・機関が参加して，企業からの相談に対応しました。